

薫 嶺



PTA活動の 一年間を振り返って



PTA会長

白鳥 政和

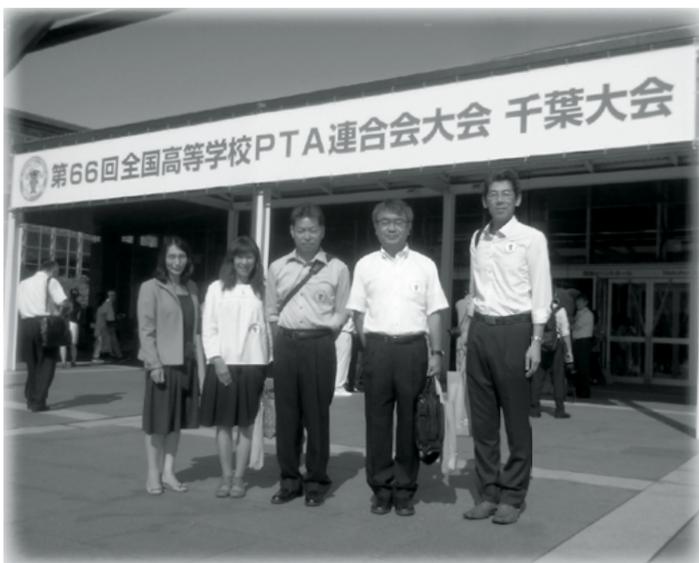
PTA活動の一番大切なことは、一年間無事であることだとかつてお世話になった先生に言われたことがあります。本年度のPTAも終盤を迎え、各事業を通して少しでも子供たちの為になることができたと同時に、この一年が無事の中に進み次年度に引き継ぐことができることは大きな喜びです。

また、本年度は「もっとPTAを楽しもう！積極的に参加して伊那北高校をよく知ろう」のスローガンのもと、例年に増して多くの保護者の皆様に関心を持って参加をしていただきました。高校のPTAには、小中学校のそれとは異なる楽しさがあります。多くの皆様に参加することを通してその楽しさを少しでも感じていただけたならば幸いに思います。

さて、私たち大人の大多数は、子供の頃には大きな夢を持っていたのに成長するに従い周りの環境を受け入れ、自身を達観し、型にはまり纏まってしまいます。そして、ロマン・ロランの言うところの「幸福とは、自分の分を知ってそれを愛することである」にいきついてきます。

今も昔も青年は、失敗を恐れることなく、大志を叶える為、大海原に飛び出して行きます。結果はどうなるか分からないけれども、それぞれに夢を持ち、時には己の分を遥かに超えた理想を持ち、その実現のためにチャレンジできるそのことこそが若者の特権です。それを否定することなく、応援し支えとなるのが私たちの役目だと思います。

個性にあふれた伊那北高生。彼ら彼女らの輝ける未来の為に今後とも暖かく見守っていかうではありませんか。



文化・教養委員長
橋爪 洋子

文化・教養委員会の活動は、PTAカルチャー講座とPTA合唱でした。

丁寧な引継ぎと先生のご指導を頼りに準備を始め、副委員長さんや、きめ細やかな仕事をしてくださった各講座の担当委員さんのおかげで、無事、終えることができました。指揮を受けてくださった保護者の方のご指導の下、素敵なピアノ伴奏で、県民文化会館の大ホールという舞台上で歌ったPTA合唱も楽しい思い出です。

力不足でご迷惑をおかけしましたが、たくさんの保護者の方や先生に支えていただき、今では、良い経験をさせていただいたという感謝の気持ちのみが残っています。この場を借りてお礼申し上げます。
ありがとうございました。

施設・厚生委員長
木ノ嶋 進

当委員会では春と秋のクリーンアップ作戦を実行しました。今年度は六月と十月の計二回。両日も晴天に恵まれ、汗をかきながらの作業になりました。

当方在学习中の昭和五十五年～五十七年には、このように大規模な奉仕活動はありませんでした。新旧の建造物と、現場の地図との把握に苦しみながら、当日は高校生に戻ったような気分感慨深く作業を進めました。

二回とも三年生の模擬試験とかち合い、野球の練習試合でグラウンドの使用ができなかったのは残念です。次年度のスケジュール編成には先生方にお知恵を絞っていた
だきたいと存じます。

委員会運営におきましては、担当の加藤先生、委員のメンバー、本会役員の方々に大変お世話になりました。また、保護者の方々、生徒のみなさんには、大勢の参加・ご協力をいただきまして、安全無事に作業完了できましたことを感謝申し上げます。

生活指導委員長
佐野 協児

活動開始より、学校行事の際の誘導を主な活動として、強歩大会の交通指導など従事してまいりました。

地区懇談会等で会場準備から地区ごとで活動していただき、全員まとまって活動することもなかったわけですが、委員の皆様のご協力や担当の先生のご指導により、一年間無事予定されていた事業を終えることができました。ご協力ありがとうございました。

高校敷地内の駐車スペースもなかなか確保できず、遠くの駐車場の案内にも快く応じて下さり、保護者の皆様にもご理解・ご協力に感謝いたします。

高校に進学してからは、学校に行く機会もめっきり減っていましたが、年間行事を通して、子供たちの生活の様子を垣間見ることができ、良い機会を頂けたと思っています。

一年間良い経験をさせていただきありがとうございました。

広報委員長
吉岡 和久

薫嶺一三九号を発行する時期になりました。年二回の会誌を無事発行することができたのは、広報委員の方々のご協力と先生方のご支援があったからです。ここにお礼申し上げます。

会誌の編集をすることによって、PTA活動を少し知ることができ、子ども達の活躍の様子を知ることができたのはとてもよかったです。会誌を通じて学校の様子を知ってもらえることができたならば幸いです。

最後に、PTA会員の皆さんが無理なく活動に参加できるようにPTA活動になっていますので、是非参加してみてください。





学校合唱コンクール

H28.9.9 伊那文化会館



第49回 伊那北高等

結 果

- 金 賞：3年A組「鷗」
- 銀 賞：3年B組「ぜんぶ」
2年F組「「未来への決意」より人間」
- 銅 賞：3年E組「俵積み唄」
3年D組「一詩人の最後の歌」
3年F組「「方丈記」よりⅢ 夜もすがら」
- 特別賞：3年C組「夜明けから日暮れまで」
- ベストコンダクター：3年A組 田中 捺希
- ベストピアニスト：3年E組 赤羽 真穂

第51回 強歩大会

9月30日(金)

27.4km



久しぶりに太陽が顔をのぞかせた初秋の日、第51回強歩大会が開催されました。今年から男女24.7kmと距離が短くなりました。



準備万端



選手宣誓!



がんばるぞ!



いざスタート!
完走目指して!



まだかなあ
(中間地点)



女子の部
1~3位



水分補給は
ここだよ!



お疲れさま



イタタ...



8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	女子上位者	8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	男子上位者
2時間31分16秒	2時間27分57秒	2時間24分44秒	2時間23分45秒	2時間19分17秒	2時間19分04秒	2時間05分37秒	1時間51分18秒	京澤 夏子 (1-A)	小又 啓史 (2-E)	藤井 康仁 (3-E)	石倉 大輔 (3-F)	南郷 隼翔 (1-F)	酒井 龍一 (1-D)	清水 龍斗 (1-B)	植田 貴大 (2-B)	宮下 和也 (2-E)	宮下 和也 (2-E)

2・3学年PTA

10月15日(土)

秋季クリーンアップ

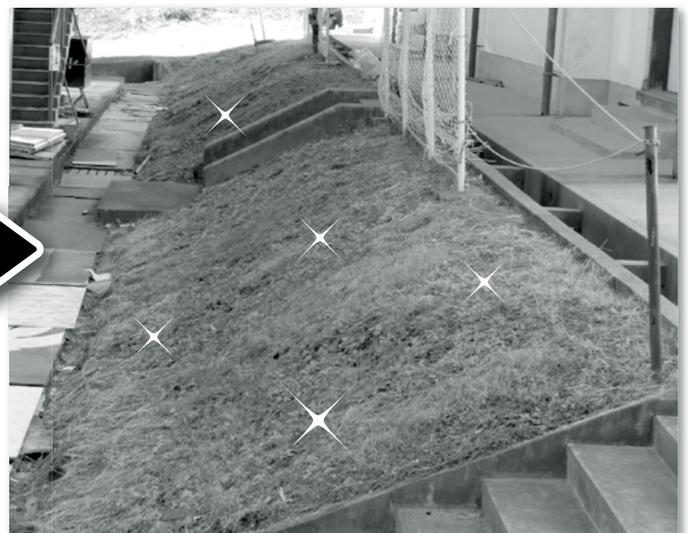
委員長より
作業の説明

10月15日(土)にPTA役員5名、2、3年生保護者91名、
生徒職員若干名が参加し、学校をきれいにしました。

施設・厚生委員長
木ノ嶋 進さん

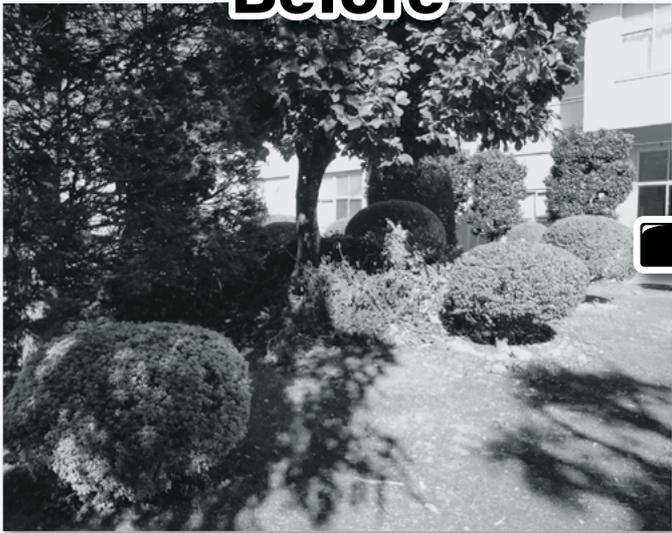
Before

After

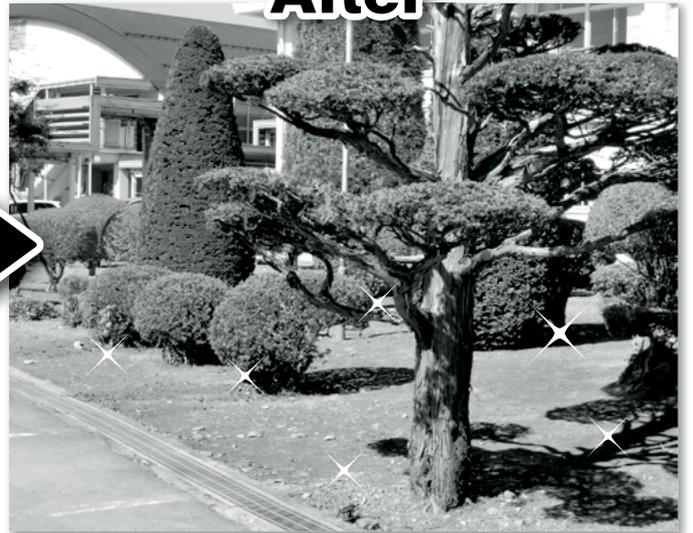




Before



After



クロスペンアカデミー 秋期講演会

演題 「歴史に学び、未来を読む」

講師 加来 耕三 氏

秋期講演会として、歴史家、作家として多方面で活躍されている、加来耕三氏の講演会を伊那文化会館大ホールにて開催しました。伊那北生徒全員と保護者、同窓会員の方も多数参加されました。



～講師紹介～

1958年 大阪市生まれ、奈良大学文学部史学科卒業
奈良大学文学部研究員を経て、現在は大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家として著作活動を行っている。著作・講演のほか、専門知識を駆使し、時代考証はもちろん、テレビ・ラジオ番組で監修・構成・出演などを多数手がけている。「堂々日本史」「ニッポンときめき歴史館」「その時時代が動いた」(NHK)など多数。

講演内容

「歴史は活用してこそ意義がある」「使えない歴史は意味がない」と常に主張されているとおり、歴史をいかに具体的に日常生活や仕事に活用するか、が講演の大きなテーマである。講演の特徴は、著作で述べたことを極力語らないところにあり、オフレコの時事情報や分析報告が登場することも少なくない。



講演会の感想

私たちが教科書で学んだ歴史を独自の視点で語っていただき、興味深いと思いました。戦国時代の織田信長に始まり、第2次世界大戦、太平洋戦争、高度経済成長まで、様々な歴史について話していただきました。講演会中に良く口にしていた言葉として、「地に足をつけて考えることが大切だ。」とおっしゃいました。そして、「立ち止まって考えて下さい。」ともおっしゃいました。この2つをしっかりと覚えて日常生活に生かしていきたいと思います。(2年)

物語やTVは結果論。しかし、その結果論は現実に近いフィクションである。出来上がった人物像から換算することによって、生じる虚構は私たちが疑問を持ち、立ち止まり、地に足をつけることで解明され、自分たちの生活に活用できるものになるということに衝撃を受け、今まで自分は何か歴史をもたない見方をしてきたと思った。人物は決して物語のように急に飛躍し英雄になることなど存在しない。今日一日を生き地に足をつけることで、半分しか知らない真実を、残りの半分を歴史に求めることで、答えにたどり着ける。そういう意味で歴史というのは科学に大変似ている。右手の法則、左手の原理、未発の発芽を意識し、常に常識、歴史の流れとともに、疑問を持ち、真実を求めていきたいと考えた講演であった。(3年)

歴史を疑って、過去から未来を見ることが、できたら面白いだろうと思いました。思いもよらない歴史の真実なんて魅力的なことだと思います。日本人の欠点は、納得できる部分があり、引き締まる気持ちが出来ました。この先の日本を作っていく子供たちの道標になるといいです。(保護者)



Memo

薫ヶ丘クロスペンアカデミー (Cross Pen Academy)

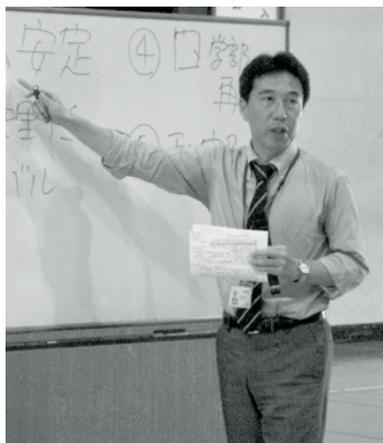
平成15(2003)年度、学校5日制に伴い、土曜日の有効活用の一つとして「薫ヶ丘クロスペンアカデミー」が、同窓会・PTA・学校の共催により始まる。学問(知)へのインセンティブをもたらす事、及び学力の向上を図るための講座・講習・研修を実施している。

最新大学入試情報と 成功する学習方法

講師 河合塾 三浦 晃裕 氏

講師の三浦先生は、河合塾で「チューター」と呼ばれ“合格のためのナビゲーター”のお仕事をされています。

今回のPTSでは、そんな受験のプロフェッショナルから「大学受験とは何か?」「大学入試を成功させるための秘訣」を教えてくださいました。



全国の傾向

- ① 国私安定
- ② 文高理低……………文系人気復活
- ③ グローバル化……………スーパーグローバル大学
37校を文部省選定
- ④ 国立での学部再編…教育学部を中心に見直し
- ⑤ 私立 定員増



2018年センター試験日程

1月13(土)・14(日)

- センター試験の80~90%が、1・2年時の学習内容
- 時間内に多くの問題をこなす力をつける

2次試験・一般試験

- それぞれの大学が必要とする力を鍛える



「合格する生徒とは」現役合格の条件

- ① 志望校決定時期の早い生徒
- ② 本格的受験勉強の開始時期の早い生徒
- ③ 授業中心で予習・復習をうまく活かしている生徒
- ④ 定期試験・模擬試験をうまく活かしている生徒
- ⑤ 毎日の勉強を積み重ねることができる生徒
- ⑥ 情報をうまく集めることができる生徒
- ⑦ 絶対にあきらめない生徒

成功する受験生の保護者の例

- ① 子どもの長所・短所がよくわかっている保護者
- ② 子どもをほめることができる保護者
- ③ 口うるさくなく、叱るときは具体的に注意する保護者
- ④ 子どもの能力を数値(点数や順位)だけで判断しない保護者
- ⑤ 長い目で受験と子どもの成長を結びつけることができる保護者



最後に2年生に激励のお言葉をいただきました。

目標を強く
持って!

クラスの雰囲気
大切に!

最後の最後まで
ねばること!

Memo

PTS (Parent Teacher Student)

昭和45(1970)年以來の伝統行事である保護者、先生、生徒三者による合同活動。ここ10年来は1学年が講演会の後、クラスでテーマを決めてPTSにより意見交換会、2・3学年は進路講演会が生徒とその保護者それぞれで行われている。

演題「満蒙開拓の 史実から学ぶもの」

講師：満蒙開拓記念館 専務理事 寺沢 秀文 氏



平和教育として 満蒙開拓の歴史を学んだ



日本国内からの「人減らし」や旧ソ連への人間の防波堤として満州に送られたが、長野県からの人数が全国最多。

開拓のため海を渡った開拓団員たちの悲しみ、苦しみ等の「被害」だけでなく、現地の中国の人々等にも多くの被害を与えたという「加害」という面もあった。

不都合なことに目をつむる社会はまた同じ過ちを繰り返す

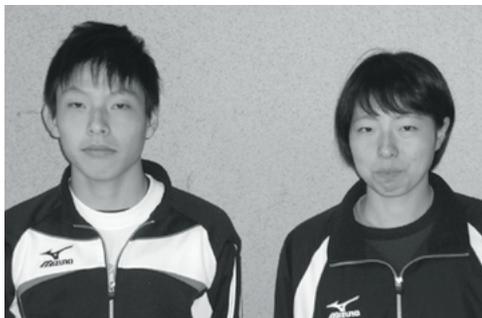
二度と悲しい犠牲者を出さないためにも「歴史に学ぶ」ことが大切
過去にしてしまったことも認識し、次の世代に伝えていく

平和とは = 周りの大切な人たちが安心して心穏やかに暮らせる社会



活躍する伊那北生

陸上部 北信越新人大会(石川県)



2E 宮澤 希 100H

私は、富山で行われた北信越大会に出場しましたが、7位という結果に終わってしまいました。県大会のような強気のレースが出来ず、課題であったスタートも失敗してしまいました。来年の北信越も今回と同じ富山です。富山には陸上部顧問の永島先生が10年前インターハイを決めた場所なので、来年の北信越では長野県記録を更新したタイムで永島先生と山形インターハイに行くことが目標です。冬練頑張ります。

1B 清水 龍斗 1500m

北信越大会に出場するにあたって、自己ベストを更新することを目標としていました。当日は調子もよく、自分の今もてる力をすべて出し切ってゴールしましたが、自己ベストまではほんの0.1秒、順位も10位と納得のいくレースではできませんでした。自分は、高校で陸上を始めたばかりで場数が少なく、緊張と焦りが出たレースだったと思うので、練習から本番を意識し、総体では自己ベストを更新し、一つでも上の大会に行けるよう努力していきたいと思います。

合唱部

第69回全日本合唱コンクール 中部支部大会

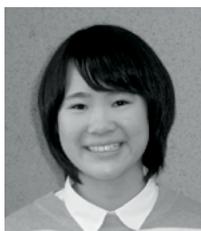
2F 小木曾 碧 (合唱班部長)

音楽部合唱班は、8月28日に岡谷市カノラホールで開催された全日本合唱コンクール長野県大会において金賞を受賞しました。そして9月24日三重県総合文化センターにて行われた全日本合唱コンクール中部支部大会に県代表として出場し、銅賞を受賞いたしました。上部大会ともなると強豪校のレベルの高さを感じずにはいられませんでした。しかしその分、自分たちの今後の課題を知ることができ大変よい経験になったと思います。その経験を生かし、さらに強い合唱班を目指して頑張りたいと思います。



フェンシング部

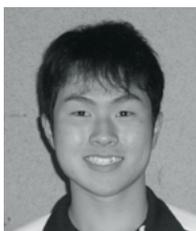
第71国民体育大会2016 希望郷いわて国体(岩手県一関市) 少年女子団体フルーレ



3C 村松 佐恵

私は、今回初めて国体に出場しました。決して自分の力だけでは出場することの出来なかった大きな大会である国体に出られ、またそこで引退試合を行えたことは、本当に素晴らしい経験でした。今まで部活をやってきて苦しかったことは多々ありましたが、強者が集うところまで私を押し上げて下さった指導者やOB・OGの方々、一緒に練習してきた仲間や長野県代表チームの皆さんにとっても感謝しています。貴重な経験を通して学んだことを今後生かしていきたいです。

第71国民体育大会2016 希望郷いわて国体(岩手県一関市) 少年男子団体フルーレ



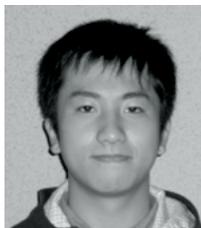
2B 鈴木 太智

今年は、国体に出場させていただくことが出来ました。今回初めての国体でもとても緊張してしまいました。結果はあまりよくありませんでしたが、とても良い経験ができたと思います。今回の経験を生かして今後、今まで以上の結果が残せるようにこれからも練習を積み重ねていきたいです。

全国ジュニアエペ選手権大会

今回の大会では相手が大学生など年上の人ばかりで中々勝つことができず、良い結果を残すことはできなかったのですが挑戦者として最後まであきらめず、粘った試合ができたと思います。勝った試合でも負けた試合でも良かった所と悪かった所の両方があったので良かった部分を伸ばし、悪かった部分を改善していけるようにこれからも頑張っていきたいです。

将棋部 全国高校将棋新人大会(東京都)



2F 鈴木 麻修

昨年に引き続き全国大会に出場できることを嬉しく思います。今年は、春の選手権大会でもとても悔しい思いをしました。心のどこかに将棋に対する甘い気持ちがあったのだと思います。相手は一手一手陣身の力を込めて指す一方、自分は集中力が頻りに途切れてしまうという状況で、実にお粗末な勝負をしてしまいました。悔しさのあまり、大会後はしばらくの間、将棋の駒に触れられませんでした。しかし、将棋部の仲間や地元の将棋愛好家の方々に励まされ研究を再開すると秋口には春と比べものにならないほど棋力が上がっているのを実感できました。今回は、あまり高みを目指さず、一局一局丁寧に戦って勝ち上がっていくことを目標に据え、大会に臨みました。一手一手魂を込め、形勢が悪くなっても諦めずに粘り強く指せたことが今回の結果につながったのだと思います。決勝で敗れ連覇を逃はしましたが、納得のいく結果を残せました。全国大会では、昨年の予選2勝を上回る3勝以上を目標とし、是非とも決勝トーナメントに駒を進めたいです。頑張ります。

卒業おめでとう

A組 担任 北村 邦彦

自分の限界を知るくらい受験勉強しろ！受験勉強を通じて人間的に成長できる。大学はブランド品じゃない、名前で選ぶな。偏差値が上だとか下だとか、もっと大切なものはいくらでもある。



B組 担任 河合 斉

いつも、全てに“感謝する気持ち”を忘れないこと。そうしていれば試練の時が訪れたとしても、それを『自分を成長させてくれる糧』と感じとることができるはずですよ。周りの人を大切にして生きていってください。



C組 担任 宮下 敏明

卒業するのはさみしいですが、新たな出会いが皆さんを成長させてくれます。新しい人生に向かって一歩足を踏み出しましょう。





D組

担任 柿沢 章浩



光のない所に影は生まれない。アナタが悩んでいる自分の短所や失敗も、そこには必ず長所や成功が存在している。大切なのは、どちらを重要視するかだけだよ。

E組

担任 中谷 章

やる気がなければ生き活きと生きられない。しかし、やり過ぎて身体や心がもたない。そのバランスを取りつつ、100歳まで生きるつもりで頑張りましょう。



F組

担任 井手 俊毅



諸君が入学した日が、ついこの前のように思い出されます。月日が経つのははやいものです。なりたい自分になってください。



GRADUATION



KUNREI

No.139
平成29(2017)年2月

編集後記

「薫嶺」一三九号を皆さんのお手元に無事届けることができ、ホッとしています。
二年前の入学式の日のくじ引きの事など忘れかけていた頃にこの大役。

顧問の加藤先生、吉岡委員長、世良副委員長はじめ、広報委員の方々のお蔭で何とか活動を続けることが出来ました。

お忙しい中、薫嶺発行にあたり原稿依頼を快く引き受けて頂いた方々、その他発行に携わっていただいた全ての方々に心からお礼を申し上げます。

これからも皆様の繋がりの「薫嶺」であり続けますように。

広報副委員長 **西納 晶子**

編集担当

(井地亜由美 (1B)	佐藤 幸子 (3E)
松本 圭子 (1B)	世良 郁江
今井 智子 (1E)	(2A・PTA副会長)
中平 弘恵 (1E)	吉岡 和久
坂元 和美 (2B)	(3C・広報委員長)
山口 寿彦 (2B)	加藤 正明
前澤 徹 (2E)	(担当職員)
横山さくら (2E)	平澤 裕二 (教頭)
富永 光浩 (3B)	
長橋 佳代 (3B)	写真提供
青木 まり (3E)	平澤写真館